

平均取得単価が安くなるドルコスト平均法

◆株式や投資信託の購入方法として有効

ドルコスト平均法は、株式や投資信託など価格変動リスクのある投資商品を購入する際、毎月一定の金額で購入し続けることで、価格が高いときには少なく、価格が安いときには多く買える効果があります。また、ドルコスト平均法は、一定の株数などを分散して購入する定量購入法と比べても取得単価を安く購入することができます。

ドルコスト平均法は、毎月数万円の少額投資から始められます。無理をせずに投資商品を購入することができますので、投資経験が少ない人が株式や投資信託などに投資をする場合には有効な購入方法ともいえるでしょう。

<ドルコスト平均法の効果>

- (1) 毎月数万円の少額投資から始められる
- (2) 一定額ずつ分散投資をすることで、取得単価が安くなる効果が期待できる

■投資信託をドルコスト平均法と定量購入法で購入した際の比較(効果)

		1月	2月	3月	4月	5月		
投資信託の 基準価額 (1万口当たり)	13,000							
	12,000							
	11,000							
	10,000							
	9,000							
	8,000							
							計	
・毎月1万口購入 (定量購入法)	投資金額	11,000円	12,000円	11,000円	8,000円	9,000円	51,000円	◇5万1,000円で 50,000口を購入
	購入口数	10,000口	10,000口	10,000口	10,000口	10,000口	50,000口	
・毎月1万円購入 (ドルコスト平均法)	投資金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	50,000円	◆5万円で 50,124口を購入
	購入口数	9,090口	8,333口	9,090口	12,500口	11,111口	50,124口	

<ドルコスト平均法の購入を活用した投資商品>

- (1) 株式累積投資 (るいとう)
- (2) 株式投資信託の積立投資
- (3) 金の純金積立
- (4) 社員の持ち株会での自社株式の毎月購入 など

分散投資の3要素

◆商品種類・運用期間・購入時期の分散でリスクを抑える

株式や投資信託、金などの投資商品の運用では、分散投資がキーワードになります。分散投資の方法には、金融商品の特性をうまく組み合わせる「商品種類の分散」、金利変動リスクを軽減するための「運用期間の分散」、価格変動リスクを平均化する「購入時期の分散」などがあります。

(1) 商品種類の分散

リスクとリターンが異なる複数の金融商品を組み合わせることで、リスクの軽減を図ります。

(2) 運用期間の分散

預貯金を中心とする商品は、金利変動リスクがあります。金利は常に動いています。金利がどのように動いても対応できるよう、運用期間を分散することも大切です。

(3) 購入時期の分散 (ドルコスト平均法)

投資信託など高い収益性が期待できるリスク商品は、価格変動リスクを持っています。まとめ買いを避けて、定期的に何回にも分けて買うことで購入価格を平均化することができます。